

上田市教育委員会 1月定例会会議録

1 日 時

平成27年1月21日（水） 午後3時8分から午後5時6分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第1会議室

3 出席者

○ 委 員

| | |
|----------|-------|
| 委 員 長 | 城下 敦子 |
| 委員長職務代理者 | 小市 正輝 |
| 委 員 | 山崎 順子 |
| 委 員 | 寺島 滋 |
| 教 育 長 | 小山 壽一 |

○ 説 明 員

西入教育次長、浪方教育参事、齋藤教育総務課長、倉島学校教育課長、岩倉生涯学習課長、宮崎人権同和教育政策幹、浅野文化振興課長、滝沢スポーツ推進課長、柳沢真田地域教育事務所長、児玉武石地域教育事務所長、大塚第二学校給食センター所長、神林中央公民館長、樋口上野が丘公民館長、石井上田情報ライブラリー館長

1 あいさつ

2 〈協議事項〉

(1) 指定文化財候補物件の文化財保護審議委員会への諮問について（文化振興課）

○ 資料1により浅野文化振興課長説明（要旨）

飯沼自治会から自治会の所有する下記文化財について、上田市文化財保護条例第4条の規定により、上田市指定文化財に指定するよう申請書が提出された。

- ・種別 有形文化財
- ・名称 飯沼郷蔵
- ・員数 1棟
- ・所在地 上田市生田字三角5257番地1
- ・形状または構造 木造二階建

後日、保護審議会で内容等を確認し調査となる。その前に本委員会でこれを教育委員会として諮問していいかどうかご判断をいただきたい。

○ 質疑

小市委員

由来の説明のなかで、飯沼公民館が現在、文書館をつくり保存されているという話があった。貴重なものがあると思うが、それらは今回一緒に議題とされ将来的には移管されるのか、それとも別になるのか。

浅野文化振興課長

今回の文化財の対象は建物だけである。現在、専門家が古文書も解読して調査している最中である。そのなかで、貴重なものとなるとその文書自体、文化財として申請するようになる。

山崎委員

教えていただきたいが、審議会へ諮問をしていいかどうかをこの定例会で判断することか。何をもって判断すればいいのか。資料だけで判断するというのでいいのか。

浅野文化振興課長

審議会へ諮問するのが教育委員会であるため、教育委員会でまず内容を確認していただき、申請の段階であるので、この内容で諮問していいかどうかを判断していただきたいということである。

寺島委員

内容的に建築時期が享保年間ということであり、該当するのではないかと個人的に思うが、諮問することであるから教育委員会として諮問することには異存はない。特別、反対する理由がないので結論は審議会のほうで調査していただければいいのではないかと。

城下委員長

ここに諮問としてあがってくるまでは、大変なことなのか。

浅野文化振興課長

今回の場合は、地元で指定文化財として申請するかどうかについて、土地が神社の土地ということもあり、地元の合意が必要であったということで地元としては時間がかかった。文化財の申請があがったのは、2年ぶりである。

城下委員長

調べてみたが、飯沼の郷蔵は市がなかなか認めてくれないという意見があったのを見た。また、外観の写真でみると屋根に何かのっているが太陽光パネルか。

浅野文化振興課長

雨漏りで補修した部分である。

北沢丸子地域教育事務所長

雨漏りをしているということで、昔のものを残してその上からカバーする方法で取り付けである。

小市委員

今後、例えば、審議会に諮問して重要なものだと判断すれば文化財として認定すると返ってくる。そのあとは、教育委員会で維持管理という形になるのか。

浅野文化振興課長

維持管理については、所有者である自治会が管理することになる。認定されると、これから改修するときには上田市から3分の1の補助が付く形となる。

小山教育長

例えば、国宝や重要文化財でも同じである。国の指定を受けても国の管理に移行するわけではない。あくまでも持ち主が管理する。その修理をする場合には補助金を国が出すということである。

○ 全委員 了承

(2) 平成27年度学校給食費改定と今後の改定方法について（教育総務課）

○ 資料1-2により齋藤教育総務課長説明（要旨）

消費税増税により食材全体が値上がりしており献立作りに苦慮している。また、現行給食費は平成21年度に改定して以来据え置きであり、5%から8%への増税分の改定を27年4月から実施したい。牛乳の価格も21年度と比較すると税込で7円弱の値上がりをしており、その他の食材の経費を縮小せざるを得ない状況である。改定額（案）は、最終的に学校、PTAと協議し決定したい。

○ 質疑

寺島委員

保護者が負担するものなので、どうこう言えない立場であるがこの改定案だと牛乳の価格の上昇分と消費税の増税分だけである。実際には、今、食料品は円安ということで全般に上がってきている。ただ、学校給食のなかで、地産地消といわれてきていて必ずしも輸入に頼

ってきているわけではない。その影響はどのくらいか分かりかねるが、この案だと、牛乳の分と消費税増税の分だけでなんら改善されていない。保護者がどう判断するかにもよるが、改定するときにはその次に少し上がることを伝えるべきである。何年かすると目減りしてしまうので、こういう機会に物価上昇率や将来的なものも含めて改善すべきであり、少しでも良くしてあげたいという気持ちである。また、昨今、牛乳やバター、チーズなどが値上がりしているが、先々、牛乳が値下がりする可能性があるのかどうか、今、7円ぐらい値上がりしているが、5円ほど値下がりしたとき牛乳の値下がり分はときに応じて値下げするというような形で保護者と話しをするのか。牛乳は市場価格で決まってくるので、7円と固定してしまうと納入業者もそれが当たり前になってしまう。価格変動するならば、値下がりした分は逆に還元する形にしたほうが話しも通りやすいのではないか。

大塚第二学校給食センター所長

今回、諮問機関である給食運営審議会を設置せず事務的に上げることから、牛乳の価格と消費税の価格を上乘せだけをしていく。次回、審議会を立ち上げる場合には、その辺を加味した上げ幅ということになるかと思う。

また、牛乳の価格であるが、毎年1円ぐらいずつ上がっていくような内容になっている。酪農家がだいぶ減っており、バターは国で重要品目に位置付けられていて、非常に品薄であるが実際には輸入されない状況であり、今後も約1円ぐらい増えていくのではないか。必ずしも減るといえるのは考えにくい。

寺島委員

状況は分かったが、そうなれば、毎年値上げするようになってしまう。牛乳の価格は基本的に上がっていくというのは分かる。牛乳が上がった分だけほかの食材へのマイナスの影響が考えられる。もし、上がっていくことが前提としてあるならば、もう2円ぐらい牛乳価格上昇分ということで、少し先の分も取り込んだ形で上げておかないと今年はいいが、来年また足りなくなり、再来年も足りなくなるという状況になる。年数が経つにつれ、給食の質が悪くなるので、どこかの時点で、少し上げ幅をみた形で考えておかないといけないのではないか。

小山教育長

今、一人あたりの小中学校の生徒の食材費を値上げさせてほしいというお願いの案について、お諮りしている。もうひとつは、今後の改定プロセスというところで価格吸収努力の及ばないことを要因とする場合については教育委員会に諮って今回と同じように値上げ案をつくる。ただし、物価上昇などの要素がある場合には、給食運営審議会に諮り改定幅が妥当かどうかということで改定案をつくるということになっている。このことについてもこの場でご了解をいただきたいということである。今回については、消費税の値上げ、牛乳の値上げということがあり、寺島委員が言われたようにそれだけ値上げすれば十分なのかと言え、かなり厳しい状況のなかでやりくりしていることは事実としてある。今回については、とにかく吸収できなくなってきたということなので値上げをさせてほしい。今後もできるだけ吸収はしていくが、吸収できないような消費税の値上げや牛乳の値上げがあった場合には、教育委員会に了解をいただき案をつかって、その上でPTAに投げかけそこで了解を得る。食材費が上がっていき、これ以上できないという場合には、あらためて給食運営審議会に諮り了解をいただき、教育委員会にも諮ってということになる。2本立てで今お願いをしているということである。

寺島委員

それについては分かったが、現状は21年から5年間同じできている。時間がかかるということであるが、一応、別途、給食運営審議会にも諮っていただきもう少し充実した学校給食にならないかということを検討していただきたい。また、今後の改定プロセスで、物価上昇等の要素がある場合についても早急に対応をお願いしたい。

城下委員長

根本的なことで、牛乳などの値上げがあって平成21年からはそれを吸収してやっていたということだが、それはそういうものなのか。

大塚第二学校給食センター所長

給食費を上げるのは、県内をみても5年ぐらいを目途に上げているところがほとんどである。それは、徴収のほうでも混乱を招くとか、なかなか理解を得られないということがあり、だいたい5年ぐらいで改定をしている。今回は消費税の改定があったので、それに合わせて改定する。そのなかでも、松本市は非常に高くなっているが、これは10%を見込んでの改定であると聞いている。次回、上げるとすると消費税が上がるタイミングでと考えている。

城下委員長

余談であるが、給食に牛乳は合わないという論争が起きているが、上田市はどうか。

大塚第二学校給食センター所長

栄養面で、カルシウムを摂取するという非常に大きな課題があるが、給食で摂取するにはしづらいということがあり、一番、有効に摂取できるのは牛乳である。冬には飲みづらいという声が子どもたちからもあがってくるが、栄養価の摂取量と文科省の基準値に合わせる形で牛乳を出している。

城下委員長

特段、PTAからは牛乳はいらないという声はあがっていないのか。

大塚第二学校給食センター

あがっていない。

○ 全委員 了承

3 〈報告事項〉

(1) 平成27年度当初予算の概要について（教育総務課）

○ 資料2により齋藤教育総務課長説明（要旨）

平成27年度当初予算部局別について、教育総務課ではこれまでも進めてきた安心安全な学校教育環境を整えるため、耐震化の推進の必要性を述べている。耐震化率は、平成20年度末の54.7%から平成26年度末の見込みの数字は95.7%である。残る施設についても平成28年度末を目指して取り組んでいく。また、耐震化事業終了後も、日常的な営繕、維持補修、改修も充実させていく必要がある。

○ 資料2により倉島学校教育課長説明（要旨）

学校教育分野では、大きな予算を使ってということばかりではなく、ソフト的な面、人的な面を含め要求させていただいている。現状と課題では、社会変化に対応した幅広い教育を実現し、いじめや不登校の未然防止と早期発見、早期対応に取り組む。また、特別な支援が必要な子どもたちに向け、インクルーシブ教育システム（障がいの有無によらず、だれもが地域の学校で学べる教育）を構築する必要がある。また、学校が地域と連携し一体となって子どもたちを育む学校づくりの推進、「放課後子ども総合プラン」に基づく一体型を中心とした放課後児童クラブと放課後子ども教室の実施、土曜日の教育支援体制等の実施について検討を進める。

○ 資料2により岩倉生涯学習課長説明（要旨）

総合計画の個別計画として「生涯学習基本構想」を策定している。次期総合計画の策定に基づき、27年度に新たな「基本構想」を策定し、市民ニーズに応じた生涯学習をさらに推進し、社会教育施設の計画的な整備を推進する。また、真田丸関連事業として、公民館等における講演会や視察研修会等を実施したい。今後の計画していく事業として、西部公民館の施設整備と神川地区公民館の整備を計画している。今後の進め方については、関係課と調整していく。

○ 資料2により浅野文化振興課長説明（要旨）

文化芸術振興計画を具体的に進めるために、「上田市文化芸術振興に関する基本構想」を策定し、具体的な施策を実施してきたが、サントミュージアの開館や次期総合計画の策定に伴い、27年度に新たな「基本構想」を策定し計画的に進める。また、文化財保護事業はもとより、文化財への理解とその活用を更に進めていく。真田丸関連事業として、観光客増加に対応した上田城跡等の関連史跡・施設の整備と、来訪者等へ上田の歴史・文化を伝える事業を強化する。

○ 資料2により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

誰もが生活の中にスポーツを取り入れ、生涯にわたるスポーツに親しめる施策を進め、市民のスポーツへの参加機会の拡大を図り、施設充実のためスポーツ施設整備基本方針の策定を進め、上田市スポーツ振興計画を推進する。また、首都圏や北陸からのアクセスの良さと、上田市の豊かな自然環境を活かしたスポーツイベントの開催を検討する。

○ 質疑

小山教育長

特徴的な取組で、新規、充実した事業のなかで、学力向上やキャリア教育（体験型学習）とあるが、括弧を外したほうがいい。キャリア教育が体験型学習と思われてしまっていないし、左ページでは、幅広い教育（自然、文化、スポーツ等の体験活動など）となっているので、学力向上やキャリア教育と体験型学習で並列にしたほうがよい。もう一点は、新規・充実した事業の中の、特別支援学級の多様な障害を持ったの障害の害をひらがなのがいに統一したほうがよい。タブレットパソコンは、障害のある児童、生徒に対する学習効果が大きく、これは研究支援の形で成果が上がってきている。当然行っていくということだが同時に通常学級にいる支援を必要な生徒に対してもタブレットが配れないのか。平成27年度から全てにというのは不可能であるがそういうことも含めてやっていかれないか。それから、以

前、コンピューターの買い替えが進めば、全てタブレットにしてしまうという話があったが、27年度予算では対応できないのか。

倉島学校教育課長

予算の要求段階では、通常学級でももちろん要求したが、教育委員会は今回、耐震化、改築も含め、かつてない規模の予算要求の枠である。我慢してもらうところは我慢していただく一方、通常学級については28年度から入れ替える予定で、それを1年前倒ししてもらえないかという予算要求をしたが、財政課では予定どおり28年度からにさせてほしいということである。いずれにしても28年度から次の更新が始まるので、そこからタブレット型に切り替えることは可能である。十分、予算は確保したいと考えている。今のところは、27年度は厳しいという状況である。

小山教育長

将来的に、学校に40台とは別に支援が必要な子どもについては、特別にタブレットを配布していくということを視野において考えてもらいたい。

小市委員

教育総務課の耐震化のところで、昭和57年以降の建物についても築30年以上経過しているとあるが、学校訪問等で回らせてもらったときにも早めに手を入れた方が総経費がかからなくて済むだろうというところがあちこちに見えた。今までは、ひとつ造るとなかなかメンテナンスが計画的になされなかった部分があるかと思う。今後順次、年次的にメンテナンスをしていくような計画を立てていくことが非常に大事なことではないか。

小山教育長

それと併せて、建て直しとは別に全体の校舎の長寿命化をどのようにするのか、長寿命化計画をきちんと持っていないとまずいのではないか。いずれ、建て直しについての予算は出しにくくなってくるだろう。

齋藤教育総務課長

今後計画していく事業ということで学校施設の改築改修計画を策定するとしているが、教育長が言われたように40年代、50年代の建物が山のようにある状況でなかなか改築ということは難しい状況にあり、長寿命化についても考えていかなければならない状況にある。

小山教育長

生涯学習分野で、スポーツ推進の部分で今年度中に市のスポーツ施設の基本構想をつくることになっているが、今の状況はどうなのか。また、文化振興の部分で歴史読本が大人用は有料となっているが、子ども用も有料にしてほしい。学校に配布するのは無料でいいが、子ども用につくったものも売れるように何冊かつくってほしい。

浅野文化振興課長

観光課と相談してみないとわからないので確認してみる。

滝沢スポーツ推進課長

スポーツ施設の基本構想については、来年度策定予定であり、今年度はたたき台のところ

までと考えている。

○ 全委員 了承

(2) 学校教育関係寄附の状況（学校教育課）

○ 資料3により倉島学校教育課長説明（要旨）

ふるさと寄附金が今までにないくらいいただいている。昨年末に寄付金をいただいた方に対するお礼の品物を市全体で見直しをした。1万円を超えた場合、選べるギフトにしたところ多くの方からいただけるようになった。

○ 質疑

城下委員長

お礼の品々は、ほかと比べると一般的なのか。

倉島学校教育課長

国ではあまり派手にならないようにということから、15%ぐらいを目途にという目安があるようである。上田市の場合は1万円から5万円未満の商品がひとつのセットで、また、5万円以上についてはグレードが高いセットになり、上田市の企業の皆さんに賛同をいただいたものもある。

○ 全委員 了承

(3) 平成27年成人式実施報告（生涯学習課）

○ 資料4により岩倉生涯学習課長説明（要旨）

平成27年成人式が1月11日（日）にそれぞれの地域で行われた。出席率は78.1%で概ね例年と同様であった。また、上野が丘公民館会場では、京都祇園甲部舞妓による「京舞」の披露があった。

○ 質疑

城下委員長

上田地域の式典の進め方であるが、最初の1部にアトラクションをやり後半の2部に式典であるが、それを入れ替えることは可能か。

岩倉生涯学習課長

成人された方々が久しぶりに行き会い、喜んで話しをしている。会場に入ってもざわついており、先にアトラクションをやって落ち着いたところで式典をしないと式典のほうでざわついており、式の運営上問題が生じるのではないかと感じた。以前からもアトラクションを先にやってきている。おそらく、今のような形で今後も進んでいくと思われるが、また検討してみたい。

城下委員長

そのような考えも分かるが、私が思ったのは、1点目として、オープニングアトラクションとして舞踊や太鼓などを一番最初にやっていただき、その後にきちんとやらなければいけない式典を先にやり、後半には砕けてもよいレクリエーション的なスライドショーや、恩師

の話しをもってきたほうがよいのではないか。2点目として、式典であるのに礼で始まって礼で終わることがないままであった。式典であるなら最初に起立、礼、があり最後にも礼があってもいいと思う。また、3点目として、地域で祝うということで公民館などでやっているが、式典が長くならないようにという配慮からだと思うが、地域で祝うことが加味されているのなら、地域の来賓の方おひとりにはご挨拶をしていただくことが必要ではないか。また、もうひとつは、式典ということから考えたときに一番最初に、国歌を歌わなくていいのかなという疑問があった。何点かお話ししたが、もし改善したほうがいいのであれば変えていただき、検討すべきであれば一緒に考えたい。

岩倉生涯学習課長

また検討させていただきたい。ただ、成人式については実行委員会を設けてやっている。成人の方の声を聞きながら、またそのなかで検討していきたいと思っている。先ほど言われたように、起立、礼から始まって、礼で終わるのが望ましいかと思うが、なかなか、子どもたちにそれを押し付けていくのは難しいのかと思う。自主的な形で行えるようになればいいかと思うが、その辺についても実行委員会等でも話しをしていきたい。

城下委員長

自主性も大事だが、このようなときはこうすべきだということを私たち大人が、新成人に教えるということも必要である。そこをうまくバランスをとっていただきお願いできればと思う。

山崎委員

今回、文化会館の式に出席した。会場の外で案内してくれる職員が家族の方も一緒に中へどうぞと案内してくれたが、新成人だけで会場がいっぱいになり、家族の方が入るスペースはあったのかと気になった。来年も同じ場所でやるのであれば、家族も入って座れるようにしてもらえればありがたい。

神林中央公民館長

家族の方の席の割り振りもさせていただき、表示もさせていただいた。数的にも余裕があり、多少、エリアを外れて座ることもあると思うがそのように配慮させていただいた。家族の方がみえても座る席は確保してあった。

城下委員長

家族の方に、会場に入っても構わないというアナウンスはされているのか。

岩倉生涯学習課長

当日、お越しになった家族については、お入りくださいと声をかけている。今回、上野が丘公民館についてはかなり来るのではないかと準備をしていたが、それほどでもなかったと聞いている。文化会館については、例年になく多い出席者であったが後ろの席のほうは若干、余裕があった。公民館などは会場的には全体的に狭いのではないかと聞いている。保護者の皆さんが入れるような形にこれからはしていきたいと考えている。

○ 全委員 了承

(4) 4大学リレー講座実施報告(生涯学習課)

- 資料5により岩倉生涯学習課長説明(要旨)

11月8日(土)、15日(土)、22日(土)、12月13日(土)に、4大学リレー講座2014「未来学科」の講座が行われた。大学の最先端の学びを、市民の生活、地域づくりに役立ててもらうため、市内の4大学が学校の枠を超え、地域に開かれた「学科」を創設し、6年目の講座である。受講者は146人であり、昨年と比べると100人ほど少ない状況であった。

- 全委員 了承

(5) うえだ人権フェスティバルの開催について(生涯学習課)

- 資料6により宮崎人権同和教育政策幹説明(要旨)

平成27年2月21日(土)～22日(日)に城南公民館でうえだ人権フェスティバルが開催される。「いのち・愛、そして絆。」をテーマに、人権に関する資料の展示や講演会などを通し、市民が人権問題を自らの課題としてとらえ、人権を尊重する意識の高揚を目指す。講演会の講師には、すわか八福人さん(アマチュア落語家)をお招きしている。

- 質疑

城下委員長

作文や詩はどこで拝見できるのか。

宮崎人権同和教育政策幹

当日、表彰式のなかで朗読もされるが、作品については2日間展示をしている。後日、まとめたものを配布する予定である。学校にも1部から2部配布したいと思っている。

- 全委員 了承

(6) 第18回うえだ城下町映画祭実施報告(文化振興課)

- 資料7により浅野文化振興課長説明(要旨)

平成26年11月29日(土)、30日(日)に第18回うえだ城下町映画祭が行われた。入場者数は延べ1,700人で自主制作映画コンテスト上映会も行われた。また、劇団ひとり監督や鶴岡慧子監督をはじめ、多数の映画関係者によるゲストトークを行った。

- 全委員 了承

(7) 上田市民会館さよならイベント実施報告(文化振興課)

- 資料8により浅野文化振興課長説明(要旨)

昭和38年11月に開館した上田市民会館の閉館に伴い、同館を利用してきた7団体の皆さんによる「さよならイベント」が平成26年12月6日(土)、7日(日)に盛大に開催された。入場者は2日間合わせて約1,500人であり、フィナーレは、参加者と観客が一体となり「蛍の光」を合唱し、51年間の思い出が詰まった親しみのある市民会館との別れを惜しんだ。

- 全委員 了承

(8) 第14回うえだ子ども文化祭の開催について (文化振興課)

- 資料9により浅野文化振興課長説明 (要旨)

平成27年2月8日(日)にサントミュージゼ大ホールにて第14回うえだ子ども文化祭が開催される。展示部門、舞台部門に分かれて行われる。

- 全委員 了承

(9) スポーツ関係市長表敬訪問者報告 (スポーツ推進課)

- 資料10により滝沢スポーツ推進課長説明 (要旨)

平成26年12月18日(木)に、上田西高等学校レスリング部が第54回全国高校レスリング米国遠征に出場するため市長表敬訪問された。開催日は平成27年1月5日(月)、16日(金)にアメリカ合衆国カリフォルニア州で行われる。

- 全委員 了承

(10) 行事共催等申請状況について (生涯学習課 文化振興課 スポーツ推進課)

- 全委員 了承

4 〈その他〉

(1) 神林中央公民館長より公民館だより報告

- 全委員 了承

閉会